

## 神戸市の冬の海浜で採集した甲虫

沢田 和宏

筆者はかつて、本誌第14巻第1号(1986)で西宮市の海浜で採集した6種の甲虫を報告したことがあるが、今回は神戸市の海浜で採集した甲虫類を報告してみたい。

採集したのは神戸市須磨区須磨浦海岸(1992年2月25日)同市垂水区海岸通り(1992年2月26日)の2ヶ所であるが、特に変わった甲虫が採集出来たという訳でわない。しかし、本誌の最近のバックナンバーを見ても神戸市の海浜の甲虫については報告されていないようなので、兵庫県産甲虫の分布資料の一つとして報告する次第である。

報告に先立ち、一部の種の同定をお願いした和泉敦夫氏に厚くお礼申し上げる。

1. *Aepheidius adelioides* MacLeay トゲアトキリゴミムシ 須磨浦海岸 2頭。
2. *Cercyon aptus* Sharp コケシガムシ 須磨浦海岸 2頭。
3. *Hypocaccus sinae* (Marseul) ニセハマベエンマムシ 須磨浦海岸 1頭。
4. *Hypocaccus varians* (Schmidt) ハマベエンマムシ 須磨浦海岸 3頭。垂水区海岸通り 1頭。
5. *Aphodius nigrotessellatus* Motschulsky セマダラマグソコガネ 須磨浦海岸 4頭。
6. *Aphodius rectus* (Motschulsky) マグソコガネ 垂水区海岸通り 3頭。
7. *Paracardiophorus sequens* (Candeze) アカアシハナコメツキ 須磨浦海岸 5頭。
8. *Dermestes coarctatus* Harold カドムネカツオブシムシ 垂水区海岸通り 1頭。
9. *Idisia ornata* Pascoe ハマヒョウタンゴミムシダマシ 須磨浦海岸 3頭。
10. *Gonocephalum coriaceum* Motschulsky コスナゴミムシダマシ 垂水区海岸通り 8頭。
11. *Gonocephalum coenosum* Kaszab ヤマトスナゴミムシダマシ 須磨浦海岸 5頭。垂水区海岸通り 1頭。
12. *Gonocephalum pubens* Marseul オオスナゴミムシダマシ 須磨浦海岸 3頭。
13. *Caedius marinus* Marseul マルチビゴミムシダマシ 須磨浦海岸 3頭。
14. *Chrysolina aurichalcea* (Mannerheim) ヨモギハムシ 須磨浦海岸 1頭(上翅のみ)
15. *Scepticus uniformis* Kōno トビイロヒョウタンゾウムシ 須磨浦海岸 3頭。

以上、9科15種の甲虫のうち、活動中と思われる食糞コガネムシ2種以外は砂の中や石の下から採集した。また、上記のうちハマベエンマムシ、コ、ヤマト、オオの3種のスナゴミムシダマシとマル

チビゴミムシダマシは個体数が多く見られた。

今回、神戸市の2ヶ所の海浜で採集をして感じたことは、残念ながら海浜が大変に汚れているということである。都会に近い海浜のため止むを得ない事なのかもしれないが、一見、砂の表面がきれいに見える場所でも、砂を掘ってみると、中から発泡スチロールやガラスの破片などが現われてくるが多かった。

須磨浦海岸は、ある程度の広さがあるが、本来ならば砂地はもっと後方まで伸びていて植物も多かったはずである。現在は住宅や水産関係の施設が浜の中まで進出し、甲虫類が棲息出来る場所は非常に限られているように思われた。

垂水区海岸通りの方はJR垂水駅のすぐ近くにあり、面積も狭くゴミと犬の糞だらけで、とても海浜と呼べるような所ではなかった。

甲虫達は環境の悪化が進む中で、ようやく自分達の居場所を探して細々と棲息しているようである。今回は冬期であったので得られた種類も上記の通り少ないが、春から秋にかけての活動期には更に多くの甲虫類が見られるものと思う。

## 神戸市の蜻蛉相（ヤンマ科）

青木典司

神戸市の蜻蛉目については、北区道場付近のトンボ相40種について、故岩崎正道氏が本誌第5巻1/2号で報告されており、さらに総括的に故松本健嗣氏が本誌第10巻第2号で「神戸市周辺の蜻蛉目」として81種を報告している。筆者は1988年から継続して神戸市のトンボ相の解明に力を注いでおり、一応の成果を得た。その結果、神戸市で現在までに記録されたトンボ類（蜻蛉目）の種類数は、88種・亜種にのほる（ただし目撃のみの記録1種を含む）ことが分かった。概略の報告（青木1991a）及びサナエトンボ科の詳細な報告（青木1991b）は行ったが、他の科についてはデータの公表はしていない。開発が加速度的に進んでいる神戸市の状況を考えると、現時点で採集データを記録することは重要であると考え、今回はまずヤンマ科について記録しておきたい。過去に発表されたのと同じ場所での記録もあるが、最近の記録として発表することにした。

記録中、「幼」は幼虫を表わし、「殻」は羽化殻を表わす。